

30-1058 W108-2

薬局実務実習導入教育の平準化に向けた日本薬剤師会の取り組み

○宮崎 長一郎¹, 出石 啓治¹, 入江 徹美¹, 尾鳥 勝也¹, 亀井 春江¹, 鹿村 恵明¹, 高橋 寛¹, 竹内 伸仁¹, 中村 正人¹, 平松 正彦¹, 宮内 芳郎¹, 百瀬 和享¹, 瀧川 秀樹¹, 永田 泰造¹ (¹日本薬剤師会)

【目的】実務実習に関するモデルコアカリキュラムが発表されたが、それが完全に実施されるまでにはまだ時間がある。それは、現状の学生には適用されず、そのため不均一な導入講義が行われている。その内容には大きな差があり、受け入れる現場から講義内容の平準化が求められている。そこで今回我々は、現場の薬剤師が大学にて導入講義を行なう際、その内容の平準化をめざし、そのための資料を作成した。

【方法】日本薬剤師会（日薬）は実務実習に関する特別委員会を立ち上げた。日薬を通じて全国の実務実習担当者に対し、導入講義に使用しているプレゼンテーションのための資料集めを呼びかけた。収集した資料について委員会で検討した。

【結果および考察】6つの地域にて使用している導入講義の資料を集めることができた。そのうち2つは紙媒体となっており、4つは電子媒体となっていた。その内容には地域によって項目の濃淡があったが、共通している部分も多かった。そこで実務実習テキストに則して調剤から在宅まで全て網羅したものを作成した。さらに、電子化することで講義者が内容を取捨選択できるように配慮した。この作業によって導入講義の内容が平準化された。またその内容を公開することで学生の教育内容を受け入れ薬局側が事前に把握することが可能となった。今後、ここで作成した導入講義用の資料を大学と薬局が共有することで、現場での実習内容を平準化できるのではないかと考える。